

この冊子は、国際理解学習をすすめている教師の皆さんの手引書のひとつとして活用していただければと作成したものです。

これが唯一模範的な手引書ではありません。多様な学習者がいて、多様な学びがあり、多様な教え方があります。この冊子をもとに、教師の皆さんが、その場その場に応じて、創意工夫して使っていただくことを願っております。

## 1 国際理解学習とは

この冊子では国際理解学習を、サイモン・フィッシャー、ディヴィット・ヒックス著、国際理解教育センター編訳『ワールド・スタディーズ (P10)』（国際理解教育センター発行 1993年）の中で定義している、

**「多くの文化が存在し、人々が相互に依存し合う世界で、責任のある生き方をするのに不可欠な知識、姿勢、技能を身につけるための学習」**

に基づき、次のようにとらえています。

### 「多くの文化」とは

この冊子では、文化を国と国の文化に留まらず、女と男、子供と大人（世代）、都市と地方（地域）、障害者と健常者、民族と民族などすべてに関することを文化としてとらえています。つまり、ここでの「多くの文化」とは、地球上に存在するすべての人間が個々に持つすべての文化を意味します。そして自分以外の文化について理解するということは、自分の文化との類似点や相違点を考えることであり、自分の文化について理解し、自己理解にもつながるはずで

### 「人々が相互に依存しあう世界」とは

私たちは、精神的なものからモノの交換まで、様々な形でお互いに支え合って生きています。そしてこの相互に依存しあう世界では、自分の日々の生活は、好くも悪くも、外部の状況から影響を受け、また一方では外部に影響を与えています。

今、世界各地で起きている戦争や環境問題、人権問題なども、決して自分に関係ない外のことではなく、同様なことが大なり小なり自分の身の回りでも起きているのです。私たちは外部に影響を与え、外部から影響を受けています。この相互に依存しあう関係は、個人レベルから地域レベル、国レベル、地球レベルのすべてのレベルにいきわたっているのです。

### 「責任ある生き方」とは

私たちは、地球上に暮らすひとりとして、ひとりでも多くの人々が、人間としての最低限の衣食住が満たされ、安全で安定した生活が保障された公正な世界の実現を目指す責任があります。また、地球は人間だけのものではなく、地球上に存在するすべての生き物のものであることを考えれば、私たちは地球を脅かさない形で、生活に必要なものを享受し、しかも次世代まで継続して得られるようにしていく責任があります。

すなわち、責任ある生き方とは、地球上に存在する生物の一つとして、公正な社

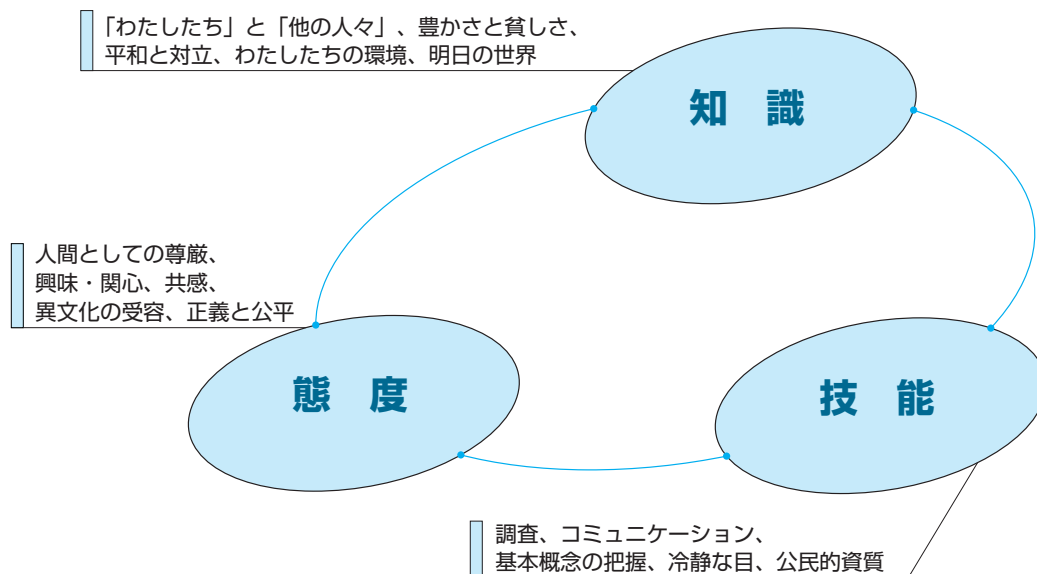
会の実現を目指し、地球を脅かさない形で環境へアプローチし、そして地球を未来に残していく生き方なのです。

## 2 学習プラン（単元案）の基本的な考え方

### 概念を設定しての学習プラン

学習プラン作成にあたっては、大きくは「環境」「人権」「平和」などのテーマを設定して考える方法と、「相互依存」「対立」「協力」などの概念を設定して考える方法の2つがあります。

この冊子では、概念を設定しての学習プランの方が、学習の3要素「知識、技能、態度」をバランスよく取り込めると考え、この方法での学習プランを提示することにしました。学習の3要素「知識、技能、態度」については、『ワールド・スタディーズ（P28）』の「ワールド・スタディーズの目標」を参考にしました。



なお、概念については、『ワールド・スタディーズ（P34）』で示された「ワールド・スタディーズ切り口ー基本概念」をもとに、i委員会での意味をイメージし咀嚼しました。その結果は、次頁の各概念のイメージ図を御覧ください。

### みんなで一緒に学ぶ学習プラン

学びは学習者ひとりでするよりも、学習者同士または指導者とともにお互い協力して学び合うほうがよりよく学べるものです。

各学習プランは、学習者たちが協力して学び合う中で、「知る」という楽しさ、「わかる」という楽しさ、「できる」という楽しさ、そして学んだ情報を外部に発信したり、学んだこと応用して何か新しいものを創造するという「学びの楽しさ」を実感できるように考慮しました。

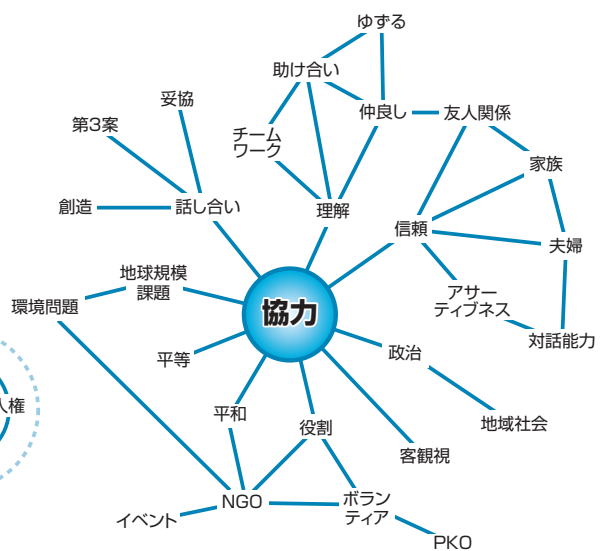
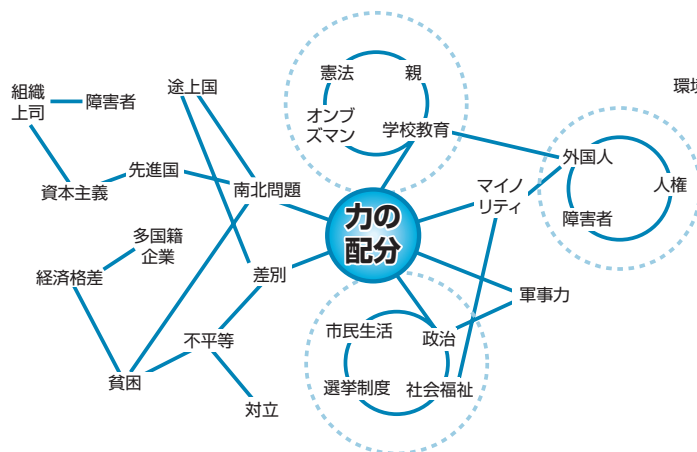
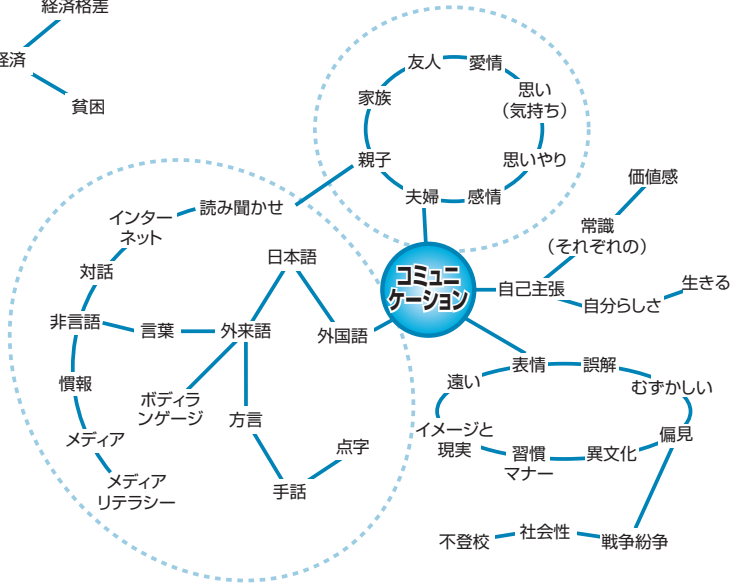
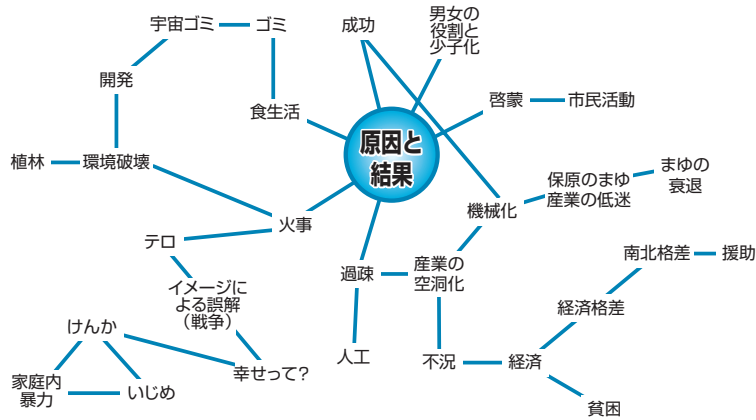
そこで、学習者の気づき、主体的参加、相互のやりとり、振りかえりができるように、様々な学びの手法を取り入れました。さらに、学習者自身の身近な関心事を取り上げ、多様な視点から学びができるような素材を選びました。

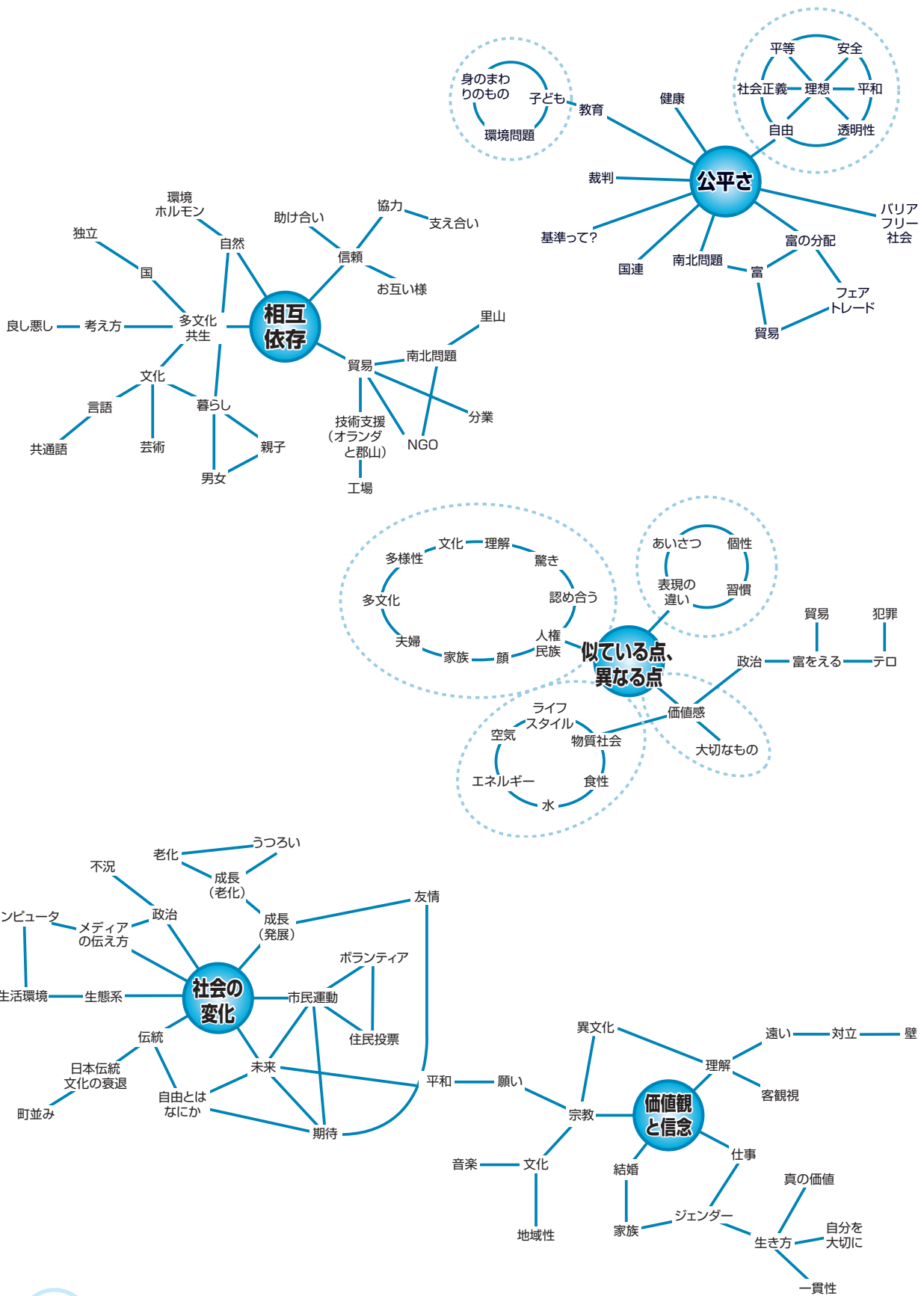
### 学び方を学べる学習プラン

学習を通じて学習者自身が、課題に気づき、その解決方法を調べ、課題解決に向けてどのように行動し、地域との連携を図っていったらよいかについて考えるというように、その学び方を学ぶことができるように考慮しました。

大切なことは、調理された魚を与える学習プランではなく、調理の仕方を学べるプランであることです。必要に応じてその仕方を応用することができる学習プランになるよう工夫しました。

# [国際理解学習の切り口 10の基本概念のイメージ図]





主な参考文献

ワールド・スタディーズ (国際理解教育センター発行)